

一亥半刻過入御、其儀如例、所役同前、

一入御後、清涼殿御裝束撤却、申合可退出、尤出御方諸司撤却退出可申渡奉行被示傳命、兩局出納

御塞解後、藏人撤御裝束今夜御調度悉納筥、俊幹予助功等子刻過早出了、

一二獻催舞妓於御拜廊下西邊著裝、三獻舞樂、坊家奏了撤標、後舞妓出舞如例降女官階出無名門斜到南庭有筵

道無脂、今夜内教坊別當早出、仍内辨奏坊家圖、奏聞了歸昇之時、便撤標之儀、催之復座、仍不仰參議、

但舞樂未闋時、起座奏聞了復座、後奏退出、長慶子頗便宜歟、

一丑半刻計宴會終、所役早出、申奉行撤却退出、命諸司、賴望退出、寅三點、

〔源氏物語六末摘花〕ついたちのほどすぎて、ことしおとこたうかあるべければ、例のところく、あ

そびの、しり給に、略、下、

〔源氏物語二初音三〕ことしは、おとこたうかあり、うちより朱雀院にまいりて、つぎに此院にまいる、

道の程とをくて、夜の明がたに成にけり、月のくもりなくすみまさりて、うす雪すこしふれる庭

のえならぬに、殿上人などももの、上手おほかるころほひにて、ふえの音もいとおもしろくふ

きたて、このおまへはことにこゝろづかひしたり、御かたく、物見にわたり給べく、かねて御

せうそ、こともありければ、左右のたい、わた殿などに、御つぼねしつ、おはずにしのたいの姫君

は、寢殿の南の御かたにわたり給て、こなたのひめぎみに、御たいめん有けり、上もひと、ころに

おはしませば、み木帳ばかりへだて、きこえたまふ、朱雀院きさいの宮の御かたなどめぐりけ

るほどに、夜もやうく、あけゆけば、みづむまやにて、ことそがせ給べきを、例あることよりほか

に、さまことにことくはへて、いみじくもてはやさせ給ふ、影すさまじき曉月夜に、雪はやうく

ふりつむ、松かせ木だかく吹おろし、物すさまじくも有ぬべき程に、あを色のなへばめるに、えら

がさねの色あひ、なにかざりかはみゆる、かざしのわたしは、にほひもなき物なれど、所がらにや